



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 柱本 修
東京都文京区後楽 1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

■国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会

令和4年度第1回国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会が、川上から川下に至る幅広い関係者の参加の下、令和4年6月21日にウエブ会議で開催された。

議論の概要は次の通り。

(各地区からの報告)

・北海道地区…アルミやステンレス等が使用されている住宅設備機器の入手難かつ価格上昇により契約に結びつかない。木材不足については、合板以外は解消の方向。川中は既存の需要に応えるのに精一杯。梱包材や桟木は北海道で重要な役割を占めており、原木不足の中で原木を高い価格で買えず、どう確保するかが課題。川上は立木価格が上がっており、伐採する数年後に利益を出せるのか不安。現場は危険を伴うので急に増産できる体制にするのは難しい。

・東北地区…住宅は合板の入手が難しい。ウクライナ情勢により杉集成材・間柱・野縁は見込み需要で売れた。大手加工工場は2〜3カ月の原木在庫があり、受け入れ制限が始まったところも。ロシ

ア単板の代替としてカラマツ原木の需要があるが十分確保できない。アカマツ原木は単板製造工程がボトルネックとなり引き合いが弱い。活用が今後の課題。地域では、国産集成材の異樹種を含めた横架材利用、ストック機能をどこが担うか、需要に対して供給まで時間を要することが課題。外国人実習生が入ってきて期待。

・関東地区…住宅設備の調達難があり、資材高騰による住宅への価格転嫁については顧客との調整に苦慮。川中では、一定程度国産材への転換が進み、今後はスギ平角の無垢材の活用が課題。製品の増産については乾燥がボトルネック。合板・LVL工場ではロシア単板の代替材を模索中。出材は概ね順調だが、今後の体制強化については、海外の状況や国内の需給動向に不透明な要素が多く、慎重にならざるを得ない。

・中部地区…住宅販売量は前年並みだが、住宅設備の供給不足や、今後は価格高で施主が注文を見合わせることも。製材はフル生産、原木調達は順調。合板の供給不足は仕様の変更で対応している。スギのLVLは価格転嫁により、山元に利益還元できている。生産意欲につながるため、現在の原木価格が適正と感ずる。

今後国産材を増産した場合に需要がある不安。カラマツは広範囲で足りず生産量確保が課題。資材不足で林業機械の更新に一年を要する。

・近畿中国…木質の住宅資材は、現在は合板・杉集成材以外は順調。合板価格の上昇や住設機器不足による工期遅延による経営圧迫。新規受注は昨年12月以降低調。地域住宅において脱炭素に向けた動きがある。川中は、原木確保は順調でフル生産しているが、人材確保・乾燥能力がボトルネック。合板工場での早生樹活用を検討。川上は、国産材の需要増を受け増産に取り組んでいる。今後の課題は、皆伐地確保、素材生産者の育成、運送トラック確保、危険作業を伴うことを踏まえた賃金を見込んだ適正な原木価格の維持。

・四国地区…桧高値で、出荷量が増え在庫も多いところ。杉は原木不足により引き合い強い。パルプ・チップ用は原料調達が難しいとの認識。川上では、大型トラックが入る林道が必要。県内5者で共同組合を5月に設立し、来年度10名程度の外国人雇用について検討している。皆伐が非常に増えているので生産事業に加えて造林事業への対応も必要。川中はフル稼働。105角だと歩留まりが悪いので、120角需要を増やしてもらえると良い。

・九州地区…輸出に関しては、上海ロッキタウの影響で中国の港に原木があふれている。年明けは160ドルだったのが現在145ドル、6月以降の需要を見越して輸出用丸太が順調に動いている。川下は、木材価格上昇は賛成であるが急

な変動は対応が難しい。部材の不足感はない。プレカットは、稼働率80〜90%。住宅資材高騰による住宅の買い控えを懸念。素材生産は10%は増えているが再造林が進んでいない。

(輸入材の状況、川下の動向等)

・米材について、第一四半期は、SPFは最低限の受注に留まっていたが、3月はウクライナ侵攻により駆け込み成約ベイマツの垂木等については現地生産の遅れや物流混乱で契約数伸びず、結果、前年同期比は若干減少。第二四半期は、SPFは価格面から最低限の受注で、ツバイフォーは例年通り。垂木は一定程度受注進んだが、トータルでは前年同期比減少。第三四半期は、価格は調整局面に入っており円安や国内在庫が多いことから、最低限の確保に留まると予想。ベイマツは発注調整となる見通し。第四四半期は、これまで長期間受注を押さえているので、多少伸びて例年程度と予想。

・欧州について第一四半期は、欧州マーケットの鈍化と、臨時船を投入し船積みが遅れたものが集中入荷したことにより大幅増。第二四半期は契約残もあるのが堅調な入荷。第三四半期は通常一部夏休みに入るのので入荷は限定的になるものの、オフアール数量がまとまり前年同期比程度と予想。第四四半期は調整局面に入り限定的な受注となる予想。

・輸入動向(南洋材、合板、ニュージランド・チリ材)について、第二四半期は前年同期比増加の方向。第三四半期は海上運賃が高値、円安、日本の需要の一服感により、前年同期比で推移と予想。

個別にみると、南洋材丸太は市場が限定されているが安定して入ってくる。マレーシアサバ州からの輸入再開による影響。チリからの梱包材の輸入はいわゆるウッドショックの影響は少なく、安定して入ってくる予想。4月までの輸入合板については、中国からの針葉樹合板が増えているが、去年増えたLVLが減った結果、前年同期比10%増。中国の針葉樹合板は、JAS認定製品であるものの、若干品質に心配があり一部のマーケットで流通。

・現在輸入材の在庫がピークであるが、物流混乱の解消やロシア問題の憶測からの堅調受注によるもの。円安やロシア問題もあることから、今後市況がぐっと下がるかと判断することは時期尚早。また、海外の需要停滞の影響は短期的に出るかもしれないが、長期的には、国内では住宅需要に対して供給不足感が続くと思。

・木質住宅資材は、価格は高止まりだが不足感はない。住宅設備は一部不足や遅れがあるが、徐々に解消すると予測。

・建材の入手困難は、浴室乾燥機・クロスの接着剤が入らないなど。

・合板では仕上げ突板等が入手困難。

・地域工務店の受注は減少し、プレカット工場の稼働率も低下。注文住宅の価格高騰で、持家が減り価格の低い分譲に動いている。

・ロシアの動向を受け仮需要で3月はホワイトウッド・レッドウッド集成材が動いていたが、今は落ち着いている。その在庫がありロシア材は現在売れ行きが悪い。施主のロシア材に対する拒絶反応は

感じられない。

・米国・欧州材は現地での需要減で価格の下落傾向が続くと予想。国産材もつられて動く予想。

・ホワイトウッドやレッドウッドの集成材は在庫が潤沢にあるので国産材への転換は進んでいない。金物工法に対応した無垢材が少ないことも転換が進まない原因。

（川中、川上の状況）

・製材については、コロナ以前の生産量に戻っており、フル稼働状態。住宅着工戸数等との関連から、需要に応じた生産加工をしている状況。

・ロシアからの製材品については、半製品が入っていて、原料不足や価格高騰といった動きは無い。製品在庫はだいぶ溜まっている状況。

・合板については、原木入荷量はコロナ前の水準に近く、昨年秋季以降の原木供給増で在庫が増。スギはそれなりに手当てきているが、カラマツ・ヒノキが厳しい。

・合板製品は、今年の4月末までの計は前年同期比+0.8%程度。今後、徐々に増えていくことを期待していたが、大規模工場の火災で今後の需給の逼迫を危惧。

・中国からの合板輸入が増えている。ロシアからの輸出入が禁止された単板が中国に流れて、合板に加工されて日本に入ってきている。JASを取得しているようだが、品質面での懸念があるとの情報もあるので、今後の動きを注視している。

・集成材については、今年の1～6月の生産量累計は前年並みの様子。スギの集

成管柱のメーカーの引きは強いが価格の天井感がある。

・ラミナは輸入材が7割を占めるが、一部遅れがあるものの順調に入荷があり大きな問題は無い。国産材比率を高めたとしても、乾燥施設が導入できない場合がある。

・LVLについては、中大規模の建築を中心に需要が増えており、統計上でも表れている。ロシア材単板の代替材確保に向けた検討を進めている会員がいる。

・スギとカラマツ等の異樹種のハイブリットLVLを、横架材や床材等これまでに国産材が使われてこなかったところに需要拡大していきたい。

・今年は天候に恵まれ、素材生産量は順調に推移し、スギは近年最高の販売量。現場はフル稼働。

・今後、木材の加工工場の原木受け入れ状況が気になるが、人材育成や施業の集約化を進め、川中・川下の需要にこたえられるよう連携して取り組みたい。

・国産材の安定供給を行うためには長期的な投資が必要であり、再造林も見越した適正な立木価格が必要。

・バイオマス発電施設について、既に稼働している工場の多くは安定供給協定等で必要な国内の原木由来の燃料を確保できているが、一部の地域において不足し、または、今後の供給を不安視する声がある。

（林野庁）

・国の補助実績をみると、ある程度の設備投資の規模がみえてくるが、これらの効果は出てくるのは、1～2年後であり、いわゆるウッドショック後の設備投資の

効果は今年の後半以降に現れると見込む。

・素材生産量や製品生産量は、需要である住宅着工戸数と連動している。令和3年は令和元年の住宅着工数より減少したものの、素材生産量や製品生産量は維持されたことから、輸入材不足の分をカバーしてやりくりした結果と思料。

・ロシアからの輸入を禁止している品目について、中国を経由して関税分類が変わらず日本に入ってくるものは違法だが、中国で加工されて輸入した場合は、法規制上違法では無い。製品の品質の話は、エビデンスに基づいて議論する必要。

・林業や木材産業において国産材のシェア拡大を進める中で消費者の理解を得ることが重要であり、他産業と比較して死亡率が高い状況を解消するために、作業安全の確保を徹底して欲しい。

中央需給情報連絡協議会の議事詳細と配付資料及び6月に開催された全国7地区の需給情報連絡協議会の議事詳細は、次の林野庁ウェブサイトURLに掲載
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikaihun/>

■九市連 第63回定期総会を開催

九州木材市場連合会（会長・林雅文・（株）伊万里木材市場社長）の第63回定期総会が6月21日（火）、熊本市のメルパルク熊本でWEB会議を併用して開催された。会場には、来賓として九州森林管理局の矢野彰宏局長にご出席頂いた。開会に当たり、林会長より、「新型コロナウイルス感染症の影響やロシアによ

るウクライナ侵攻など、世界情勢はめまぐるしく変化。国内においては、物価高の影響が出てきている。このような時こそ、地域に根差した木材販売・供給の拠点であり価格の安定化を行える市場の能力が供給者・需要者の両者に求められる。需給情報連絡協議会では、国への情報提供や事業者間での連携などこれらにつながる事業を行うことができた。会員市場の協力に感謝。

森林経営管理法・公共建築物への木材利用の促進などの社会における木材に対する期待感、国産木材の安定性に期待する消費者マインドの変化など国産材を取り巻く環境は追い風が吹いているが、世界情勢の混乱など追い風に歯止めをかける要素も数多くある。こういったものに負けず、これからの国産木材の安定した生産・販売体制を築くことができるか、まさに木材市場業の分水嶺となると思う。4年間の連合会運営への会員各位への感謝とこれからの九州木材市場連合会の益々の発展を祈念している。」等の挨拶があった。

来賓としてご出席頂いた九州森林管理局矢野局長から、祝辞の後、森林・林業基本計画の内容、民間建築物における木材利用の促進(公共建築物等利用促進法、建築物木材利用協定等)、森林環境税と森林環境譲与税を活用した取組状況、「新しい林業」の実現に貢献する九州森林管理局の取組等についてのご紹介を頂いた。

総会では、令和3年度事業や決算が報告され、令和4年度事業計画・同収支予算案が承認された。また、会長ならびに

役員の変更が承認され、林会長が4年間の任期を終えて退任し、多田啓副会長(株)アサモク代表取締役)が会長に選任された。副会長には、安部省祐氏(大分県木材組合連合会代表理事)、今坂幸一氏(熊本木材(株)代表取締役)が選任された。総会に先立って開催された実務者会議では、市況等についての報告等



「九市連定期総会の様子1」



「九市連定期総会の様子2」

が行なわれた。

■マーケットインによる安定供給体制強化事業の地域選定

令和4年度の林野庁補助事業「マーケットイン」による安定供給体制強化促進事業」の支援を受ける取組が全国で8地域決定した。この事業は、需要者のニーズに対応したマーケットインによる木材の安定供給体制の強化促進を目的として、川上から川下までの生産・流通の各段階の関係者が参画する地域協議会等が、地方自治体と協力して、木材の生産・流通において地域が抱える課題を解決するために、行う取組を支援するというもの。事業は日本木材総合情報センターが実施し、全市連は共同提案者となっている。この度、外部有識者による選定委員会の審査を経て取組提案が選定された8地域(団体)は次の通り。

- (1) (株)仙台木材市場(宮城県仙台市)
- ・大型木造物件への地域産材安定供給体制強化の検討
- (2) 茨城県産材普及促進協議会(茨城県坂東市)
- ・中大規模建築物への八溝材安定供給体制の策定
- (3) 岐阜県木材協同組合連合会
- ・「白川LSCシステム」の具体化を図るため、木材の規格・数量・価格等の協定締結及び協定者間の需給情報の共有、原木・製品の配送の試行
- (4) 株式会社鈴三材木店(静岡県浜松市)
- ・民間非住宅建築物の木造木質化受注体制の構築

(5) 鳥取県森林組合連合会

・需給情報の共有化及びICTを活用した原木安定供給システムの構築
・県産材製品の供給体制の強化等

(6) 徳島県木材協同組合連合会

・丸太供給体制構築、県産材流通・加工体制構築、需要者側へのアプローチ、大径材利用技術の検討

(7) 高知県木材協会

・市町村等公共建築物への地域産木材供給体制の強化

(8) 佐伯広域森林組合(大分県佐伯市)
・大型パネル工法住宅による原木・製材品の安定供給体制の構築

■東北森林管理局が高品質ブランド材を供給

(株)山形城南木材市場(安部雄佑社長)と秋田中央木材市場(株)(工藤茂丸社長)は、東北森林管理局が新たに定めた高品質ブランド材規格の丸太を今年の秋の市に出品する予定。この規格は、高品質な木材の調達が国内外とも難しくなっている状況に際して、優れた国産材資源を有効に活用するため、東北森林管理局が本年新たに制定したもので、樹種には、あきたの極上品・秋田杉、(天)国(天然林国有林高品質)―青森ヒバ、南部アカマツ、天然秋田杉、広葉樹、(高)国(高齢級国有林高品質)―秋田杉、前森スギがある。林齢は80年生以上。規格を満たす高品質な丸太の小口にラベル表示を行い、厳選された秋田杉、前森スギには、丸太の小口に刻印を押印することとなっている。また、製材品や最終製品に、(天)国、(高)国の表示がで

きる。(株)山形城南木材市場は、高齢級国有林高品質材 前森スギ(80年生以上6m上30cm上)を、秋田中央市場(株)は、高齢級国有林高品質材 秋田スギ(上小阿仁)とあきたの極上品(80年生以上4m上30cm上)を出品する予定。

■東京中央木材市場浦安市場開設37周年記念市を開催

令和4年7月6日、東京中央木材市場(株)(飯島義雄社長)は浦安市場開設37周年の記念市「大総力祭」を開催した。午前中は蔵出しお宝市で各材木店の倉庫に眠っていた銘木等の一品せりが行われた。記念式典では飯島社長から「生活空間の中で木材を積極的に活用する。無垢ウッドファースト社会の実現」を合言葉に共に行動して行きたい」とのご挨拶があり、午後は、梱包せり、一般せり、問屋推奨品せりが行われた。当日は好天に恵まれ、来年に移転を控えた浦安市場最後の開設記念市として賑わった。



「記念市の様子」

■改正建築物省エネ法等が成立

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、住宅・建築物の省エネ対策を加速し、あわせて建築分野での木材利用促進し、吸収源対策の強化に寄与することが求められている。このため、「脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律」が令和4年6月17日に公布された。

【概要】

- 1.省エネ対策の加速(建築物省エネ法・建築基準法・住宅金融支援機構法)
- ①省エネ性能の底上げ・より高い省エネ性能への誘導
- ・全ての新築住宅・非住宅に省エネ基準適合を義務付け(現行は中大規模の非住宅)
- ・トップランナー制度(大手事業者による段階的な性能向上)の拡充、誘導基準の強化等を通じ、ZEH・ZEB水準へ誘導
- ・販売・賃貸時における省エネ性能表示の推進
- ②ストックの省エネ改修や再エネ設備の導入促進
- ・省エネ改修に対する住宅金融支援機構による低利融資制度を創設
- ・市町村が定める再エネ利用促進区域内について、建築士から建築主へ再エネ導入効果の説明義務を導入
- ・省エネ改修や再エネ設備の導入に支障となる高さ制限等の合理化
- 2.木材利用の促進(建築基準法・建築

土法)

- ①防火規制の合理化
- ・大規模建築物について、大断面材を活用した建物全体の木造化を可能とする。(3000㎡超の大規模建築物について、構造部材の木材をそのまま見せる「あらわし」による設計が可能となる新たな構造方法を導入し、大規模建築物への木材利用の促進を図る)
- ・区画を活用した部分的な木造化を可能とする。※高い耐火性能の壁・床での区画により延焼抑制
- ・延焼を遮断する壁等を設ければ、防火規制上、別棟扱いを認め、低層部分の木造化を可能に
- ②構造規制の合理化
- ・二級建築士でも行える簡易な構造計算で建築可能な3階建て木造建築物の拡大(現行の高さ13m以下を高さ16m以下に拡大)等
- 3.建築基準法に基づくチェック対象の見直し
- ・木造建築物に係る建築確認の対象は、2階建て以上又は延べ面積200㎡超の建築物に見直され、建築確認検査の審査省略については平家かつ延べ面積200㎡以下の建築物が対象となる。
- ・結果的に建築確認及び審査の対象は非木造と統一化され、省エネ基準の審査対象も同一の規模となる。
- 今後、本法の施行に必要な政省令告示等の整備が進められる。
- 出展・国土交通省ウェブサイト
https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_tk_000163.html

雑記帳

京都の夏の風物詩である祇園祭が3年ぶりに開催された。山鉦巡行は有名で、宵山の露店やお囃子、駒形提灯に照らされた山鉦も幻想的だが、山鉦の組み立ても見入る人を引き付ける。鉦町では祭りの数日前から山鉦建てが始まる。山鉦は釘や金具は使わず、木組みと縄で木材を固定する縄がらみという技法で組み立てられる。縄で木材を固定するのは理由がある。鉦は重さ10トンもあり、上部に多くの人が乗るので、巡行するとかなり揺れる。道路を曲がる際には、道路に青竹を敷いて水をかけ、その上に車輪を載せて人が綱を引いて方向を変える。辻回しと呼ばれる巡行の最大の見せ場である。釘を打って作っていたら接合部がもたないだろう。揺れを吸収できるよう縄で木材を固定する伝統技法が引き継がれている。○山鉦に使用される木は、本体には荷重のかかり具合に応じてマツ、カシ、ヒノキなどが使われる。さらに強度が求められる車輪や軸にはアカガシ、車輪の中心にはケヤキなどが使われる。鉦は上部に多くの人が乗るので、重心を下げておく必要がある。本体の底部に石持と呼ばれる重さと長さがある角材を取り付けるが、これはケヤキ、クロマツ、サクラなどである。まさに適材適所。アカガシの大径木がなくなってきたので資源の維持も重要な課題だ。○夏は、祭りや盆踊り、帰省や旅行など活動的になる季節。また新型コロナウイルスが急増し、さらに新たな感染症も話題になっているが、この2年半で多くを学んだ。冷静に対処できるだろう。



暑中お見舞い申し上げます



西垣林業株式会社

代表取締役社長 西 垣 雅 史

代表取締役副社長 西 垣 貴 文

■桜井市場

〒633-0064 奈良県桜井市大字戒重137番地

TEL ▶0744 (46) 3800 FAX ▶0744 (46) 3838

■名古屋市場

〒467-0855 愛知県名古屋市瑞穂区桃園町3番23号

TEL ▶052 (811) 7131 FAX ▶052 (824) 8297

■三重事業所マルタピア

〒518-0204 三重県伊賀市北山1560

TEL ▶0595 (52) 3131 FAX ▶0595 (52) 3133

■事業所／工場：酒田・茨城・浜松・豊田・舞鶴・四国

■出張所：栃木・高山・高知西部

■西垣林業フォレスト(株)：奈良本社・高知・愛知・栃木・山形



株式会社仙台木材市場

代表取締役社長 守 屋 長 光

本社・市場

〒983-0036

仙台市宮城野区苦竹二丁目7番30号

TEL 022-232-1101

FAX 022-232-1107

<https://www.s-itiba.com>

市日 第2・第4水曜日

開市 午後1時30分

東京木材市場協会

会 長 市 川 英 治

新東京木材商業協同組合

理事長 廣 木 俊 一

〒171-0044

豊島区千早一丁目二〇一三

電話 〇三―三九五九―七八二一
FAX 〇三―三九五八―三五九二

東京新宿木材市場株式会社

代表取締役社長 中 村 司

〒156-0057

世田谷区上北沢五―三七―一八

電話 〇三―三三〇四―五三一五
FAX 〇三―三三〇四―四三一五

東京中央木材市場株式会社

代表取締役社長 飯 島 義 雄

〒279-0032

浦安市千鳥一三

電話 〇四七―三五五―〇〇〇一
FAX 〇四七―三五五―一三三三

丸宇木材市売株式会社

代表取締役社長 青 木 豊 実

〒136-0071

江東区亀戸六―五七―一九

電話 〇三一六九―四一八―四一
FAX 〇三一五六―二八―三七二二

株式会社東京第一木材市場

代表取締役社長 梶 本 弥 彦

〒300-0873

茨城県土浦市荒川沖町

電話 〇二九―八四二―九八八一
FAX 〇二九―八四二―九八六二

東京木材市場株式会社

代表取締役社長 市 川 英 治

〒136-0082

江東区新木場二―一―八

電話 〇三―三五二―七一五
FAX 〇三―三五二―七一五

株式会社東京木材相互市場

代表取締役社長 西 村 信 洋

〒179-0081

練馬区北町六―三二―三六

電話 〇三―三九三―四一四二
FAX 〇三―三九三―四一四二

東京木材市場協会 事務局

〒112-0004

東京都文京区後楽一―七―一二
(一般社団法人全日本木材市場連盟内)

電話 〇三―三八一―八二九〇
FAX 〇三―三八一―八二九〇

株式会社東海木材相互市場

代表取締役会長 鈴木 和 雄
代表取締役社長 上 地 浩 之

本 社

〒456-0033 名古屋市熱田区花表町21-1
電 話 052-881-1551
F A X 052-881-3082
E-mail info@kirakuninet.com
http://www.kirakuninet.com

西部市場 市日 毎週火曜日

〒490-1444 愛知県海部郡飛島村木場1-17
TEL 0567-55-0155 FAX 0567-55-2538

大口市場 市日 毎週金曜日

〒480-0121 愛知県丹羽郡大口町河北2-2
TEL 0587-95-1101 FAX 0587-95-1105

サテライト美並

〒501-4101 岐阜県郡上市美並町上田字小倉塚251番1
TEL 0575-79-5055 FAX 0575-79-5060

サテライト名倉

〒441-2432 愛知県北設楽郡設楽町東納庫ムカイ山16番
TEL 0536-63-3456 FAX 0536-63-3535

飛騨匠工場

〒506-0035 岐阜県高山市新宮町112番地B
TEL 0577-36-5439 FAX 0577-36-5939

東京木材市場株式会社

代表取締役社長 市 川 英 治

本 社・市場

〒136-0082 東京都江東区新木場2-1-8
T E L 03-3521-7111 (代表)
F A X 03-3521-7115

市 日 毎週木曜日

T E L 03-3521-7121 (市売)

https://www.tomoku-ichiba.co.jp

越谷センター

〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町1-130
T E L 048-989-0171
F A X 048-989-0174



本 社

〒849-4252 佐賀県伊万里市山代町楠久津145番地30
TEL 0955-20-2183 (代表) FAX 0955-28-2855

福岡営業所

〒824-0604 福岡県田川郡添田町野田1927
TEL 0947-82-5010 FAX 0947-82-5011

大分営業所

〒879-5413 大分県由布市庄内町大龍1208-1
TEL 097-586-2210 FAX 097-586-2230

南九州営業所

〒899-8606 鹿児島県曾於市末吉町深川886番地
TEL 0986-28-0228 FAX 0986-79-1777

南九州営業所 第二土場

〒899-8606 鹿児島県曾於市末吉町深川8515番地2
TEL 0986-36-4880 FAX 0986-57-7607

糸島事業所 木の駅「伊都山燦」

〒819-1563 福岡県糸島市高来寺342番1
TEL 092-331-5020 FAX 092-331-5021

ホームページ http://www.imarimokuzai.co.jp
メールアドレス imamoku@imarimokuzai.co.jp

茨城県木材市場協会

〒310-0826 水戸市渋井町50番地
株式会社 茨城木材相互市場 内
TEL 029-221-3111
FAX 029-221-3393

市日 毎月13日

株式会社茨城木材相互市場

代表取締役会長 打越芳男
代表取締役社長 大谷知行

〒310-0826 水戸市渋井町五〇
電話 〇二九-二二一-三二二(代)

市日 毎月18日

株式会社ミトモク

代表取締役社長 安藤裕一

〒310-0851 水戸市千波町一八八四
電話 〇二九-二四一-一三二(代)

市日 毎週木曜日

株式会社東京木材相互市場

代表取締役社長 西村信洋
市場長 山本大介

〒300-2635 つくば市東光台五-三
電話 〇二九-八四七-四二一(代)

株式会社東京第一木材市場

土 浦 市 場

代表取締役社長 梶本弥彦

〒300-0873 土浦市荒川沖町南区一-一三
電話 〇二九-八四二-九八八(代)

市日 毎週金曜日

丸字木材市売株式会社

代表取締役社長 青木豊実
市場長 高橋良之

〒304-0005 下妻市大字半谷一-〇〇-三
電話 〇二九-六三〇-七〇〇(代)

関東木材センター協会

会 長 西 村 信 洋

副会長 菊 地 實

会 計 桃 溪 崇

監 事 伊 藤 元 二

事務局 〒179-0081

東京都練馬区北町 6-32-36

(株)東京木材相互市場内

T E L 03-3934-4118

F A X 03-3934-4126

愛知県木材市場連盟

会 長 鈴 木 善一朗

(株)東海木材相互市場 西 垣 林 業 (株)

三河材流通加工事業(協) (株)東海林材市場

本 州 市 売 (株)

愛知県木材市場連盟問屋部会

会 長 川 出 泰 之

事務局 〒456-0033

名古屋市熱田区花表町21-1

(株)東海木材相互市場

T E L 052-881-1551

F A X 052-881-3082

全日本木材市場連盟北陸支部

支部長 谷 口 健 郎

【加盟木材市場】

株式会社富山合同木材市場 (076-452-1155)

株式会社高岡木材市場 (0766-52-2131)

富山県森林組合連合会 (076-434-1750)

福井県嶺北木材林産協同組合 (0776-53-0221)

福井県木材市売協同組合 (0776-41-3730)

福井県森林組合連合会 (0776-38-0345)

若狭木材流通センター協同組合 (0770-45-3500)

株式会社名田庄ウッドセンター (0770-67-3386)

徳島県木材市場連盟

会 長 浜 口 伸 一

〒770-8001

徳島市津田海岸町 4 番31号

株式会社 徳島中央木材市場 内

(株)徳島中央木材市場 088-662-5210

大 一 木 材 (株) 088-664-6333

(株) ゲ ン ボ ク 088-663-2275

丸 幸 産 業 (株) 088-663-2303

三重県木材市売連盟

会 長 中 川 浩 之

【加盟木材市場】

鈴 鹿 木 材 (株) 熊野原木市場(協)

西 垣 林 業 (株) 伊 山 市 売 木 材 (株)

三重事業所マルクピア (有)美杉木材市場

ウッドピア市売(協) 松阪地区木材(協)

中 川 林 業 (株) 松 阪 木 材 (株)

(有)丸天木材市場 尾鷲木材市場(協)

事務局 〒515-0814 松阪市久保田町208

中川林業(株)内

TEL 0598-51-6602 FAX 0598-51-1272

木曽官材市売協同組合

理事長 勝 野 智 明

定例市日

原木 萩原事務所 月 1 回

坂下事務所 月 2 回

製品 国有林土場活用委託 月 1 回

月 1 回

〒399-5604

長野県木曽郡上松町正島町 2-45

電 話 0264-52-2480 (代表)

http://www.kisokan.com

愛媛県木材市場連盟

会 長 二 宮 政 文

〒798-1124 宇和島市三間町増田389

大木坑木有限公司社宇和島出張所内

大木坑木(有)宇和島出張所 (0895) 58-3033

(株)宇和原木市場 (0894) 62-2851

(株)久万木材市場 (0892) 21-1175

(株)日吉原木市場 (0895) 44-2822

香川県木材市場連盟

会 長 樋 口 哲 也

副会長 黒 岩 寛

〒760-0055

高松市観光通 2-10-15

(株)太洋木材市場内

(株)太洋木材市場 TEL(087)833-2311

FAX(087)831-3040

ナイス(株)香川営業所 TEL(0875)25-3099

FAX(0875)24-1336

秋田中央木材市場株式会社

代表取締役社長 工 藤 茂 丸

〒010-0941

秋田市川尻町字大川反232-7

TEL 018-863-2121

FAX 018-863-2120

千葉県木材市場協同組合

理事長 小 池 正 男

〒283-0823 千葉県東金市山田800

T E L 0475-55-6161

F A X 0475-55-6171

http://www.mokuichi.or.jp/

青森県森林整備事業協同組合

青森原木市場

理事長 川 崎 幸 宏

〒030-0955

青森市大字駒込字桐ノ沢129-1

TEL 017-743-5411

FAX 017-743-5410

愛知県木材市場連盟
問 屋 部 会

部会長 川 出 泰 之

〒480-0121
丹羽郡大口町河北2-2
(株)ナゴヤ辻文内
TEL 052-821-0156

市日 毎週水曜日

松阪木材株式会社

代表取締役会長 田 中 善 彦

代表取締役社長 久 保 覚

〒515-0088
三重県松阪市木の郷町21
TEL 0598-20-2323
FAX 0598-20-1082全日本木材市場連盟
中 国 支 部

支部長 山 下 薫

〔加盟木材市場〕

石谷林業(株)智頭支店 0858-75-0635
(株)米子木材市場 0859-27-0721
(株)出雲木材市場 0853-21-1855
(株)益田原木市場 0856-22-0697
(株)福山中央木材市場 0849-63-1001
(株)勝山木材市場 0867-44-2600
津山木材市売(株) 0868-22-6246
(株)津山綜合木材市場 0868-28-7777
(株)岡山木材相互市場 086-296-0306
(株)岡山木材市場 086-272-2178
真庭木材市売(株) 0867-42-0602事務局 真庭木材市売(株)内
〒719-3203 岡山県真庭市富尾1
TEL 0867-42-0602
FAX 0867-42-2600

岐阜県銘木協同組合

10月13、14日には、

当組合最大の市

全国優良銘木展示即売会

を開催致します!!

理事長 吉 田 芳 治

岐阜市茶屋新田3丁目90番地
tel 058-279-0788 fax 058-279-2156
URL <https://www.gifu-meiboku.com>
E-mail meiboku@ccom.or.jp

毎市のご協力・感謝申し上げます

株式
会社 九州木材市場

取締役会長 田 中 正 史

取締役社長 田 中 昇 吾

取締役副社長 田 中 史 郎

定例市日 8日 23日

〒877-1231
大分県日田市大字三和2726-10
TEL 0973-24-3625
FAX 0973-24-3626

(協)高知県木材市場連盟

高知県林材株式会社

〒781-0112
高知市仁井田4348
TEL 088-847-0111
FAX 088-847-0116

協同組合高知県木材市場連盟

〒780-0850
高知市丸ノ内二丁目1-23
TEL 088-826-8231
FAX 088-826-8233

九州木材市場連合会

会 長 多 田 啓

(株)アサモク

副会長 安 部 省 祐
大分県木材協同組合連合会副会長 今 坂 幸 一
熊本木材(株)

事務局 福岡市木材協同組合 内

〒810-0071 福岡市中央区
那の津3-16-6
TEL 092-771-5791
FAX 092-771-3044

お役に立ちます！林業信用保証！

(独)農林漁業信用基金は、林業・木材産業事業者の方々が、融資機関から資金を借入する場合、債務を保証することにより、円滑かつ有利に借入ができるよう、支援する公的機関です。

融資枠を広げるためのお手伝いをします

補助金の自己負担分等を、取引先の融資機関から借入する際に、当基金が保証人となることで、円滑な資金調達を支援いたします。

無利子の制度資金があります

事業計画が都道府県知事の認定を受けると、無利子の融資を受けることができます。

様々な資金用途を保証します

運転資金(原材料調達費や人件費等)や設備資金(機材購入費等)が対象となります。



新型コロナや災害も支援します

つなぎ資金や復旧資金の保証料を免除する制度があります。

お取引先の銀行、信用金庫、信用組合などの金融機関、当基金の窓口等へお気軽にご相談ください。

独立行政法人 農林漁業信用基金

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1
【TEL】03(3434)7826,7827
【FAX】03(3434)7837愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階
詳細はこちらをご覧ください
URL: <https://www.jaffic.go.jp>